



## 委員会等活動成果

### 国際関係委員会 外国文献研究会

豪アクチュアリー会の月刊誌 "Actuary" 第 87 号(2004 年 3 月) 16 ページ  
"Obituary" Clive Prime より

2004 年 4 月 21 日

#### 原文の入手方法

IAAust Publications Home Page

から Actuary Australia Magazine を選択し、87 号をクリック。

キャサリン・メアリー・プライム女史の訃報に接しました。日本アクチュアリー会の 100 周年記念のパーティーでスピーチをいただいたことを覚えている方も多いと思います。

ご冥福をお祈りします。

#### 訃報

Catherine Mary Prime

(1942.9.30~2004.2.11)

キャサリン・メアリー・プライムは、Robert Wishart と Ruth Wishart の一人娘として 1942 年シドニーに生まれた。父は弁護士、母は薬剤師であった。子供時代、家族は父の度重なる転職のためシドニーとブリスベインの間で転居を繰り返した。ブリスベインでは弁護士業、シドニーでは広告業という具合であった。こうした頻繁な引っ越しによりキャサリンは 2 つの街で計 7 つの小学校に通っている。当時の生活は決して楽なものではなかったようで、のちの生活で暮らし向きに不満を漏らす息子たちに対し、きまってその甘さを嘆き、彼女の子供時代、男の子は履く靴もなかったと諭した。

高校時代はずっとシドニー女子高等学校に通うことが出来た。彼女は数学の才能に恵まれた優秀な学生であった。高校時代、一家はシドニーにとどまっていたというものの相変わらずシドニーの中で頻りに引っ越しを繰り返す生活であった。そのような状態であったが、また入学後行われる恒例の洗礼式ではインクの吸い取り紙を食べさせられたりしたが、それらが成績に響くこともなく、高校最後の試験では総合成績で 2 番、またニューサウスウェールズ州では数学で 3 番の成績であった。

その後シドニー大学で化学と数学を専攻し学士号を取得している。AWA の社内図書館で休日のアルバイトをしていたとき、のちに結婚することになる電気技師のアレック プライムと出合っ

る。学位取得の後、彼女はシドニー証券取引所のプログラマーとなり、その後 MLC 保険に転職をした。MLC では、同年代の男性社員がたくさんアクチュアリー勉強をしていたことから、またアレックの勧めもあり、アクチュアリー勉強を始めた。

1965 年に結婚した後、彼女は夫とイングランドを訪れている。そこで一時アレックの家族と過ごしている。ヨーロッパ各地を旅行した後、イングランドに戻って、アクチュアリー勉強を続けながらエキイタブル生命で数理関係のプログラマーとして働きはじめている。

1967 年にはオーストラリアに戻り、MLC に復帰。1971 年に試験に合格。その時、彼女はオーストラリア初の女性アクチュアリーであった。MLC で彼女の才覚はあっという間に開花し、女性としてただ一人のシニア・ポジションを得ている。

雑誌 New Idea から、オーストラリア初の女性アクチュアリーとしてウーマン・リブ運動への参加を勧められたようであるが、1971 年 8 月 22 日のサン・ヘラルド紙に次のようなコメントを残している。「私はウーマン・リブ（女性解放運動）に加わるつもりはありません。私は自分自身を解放できていますから」と。このコメントは彼女のその後の成功の行動原理をコンパクトに物語っている。彼女は根気強く断固とした意志をもった女性であり、Louis Pasteur の言葉「チャンスは前向きな意志を持った人を好む。」をよく引用している。

アレックとキャサリンは 1970 年、すでに両親が薬局を購入していたアスクイスに 1 ブロック分の土地を購入し、かれの設計で家を立てている。キャサリンは、MLC で働きながら 1975 年と 1978 年に 2 人の息子、オーエンとクライブを生んだ。

彼女はアウト・ドアが好きで、彼女から言い出したときはもちろんのこと、アレックが提案したときも喜んで参加した。2 人は、ニューサウスウェールズのいろいろなところでキャンプをし、またカヌーを楽しんだ。これらの活動は後に 2 人の息子にも受け継がれた。自然とアウトドアに対する彼女の情熱は、人生ずっと変わることはなかった。それは彼女の庭を見ても分かる。朝の餌付けの時間には野生の鳥が多く集まっている。また、タスマニアのクレイドル・マウンテンやニュージーランドのミルフォード・トラックなどへ 2 人でハイキング旅行へ出かけていることからもうかがい知れる。

彼女は MLC 在籍中に法律の勉強もしている。1983 年に弁護士資格を取得すると MLC を退職し、のちにタワーズ・ペリン グループ傘下に入るオーストラリアのコンサルティングファーム PTOW のパートナーになっている。1987 年にタワーズ・ペリンを離れ、コンサルティング会社 Catherine Prime and Associates を開業した。主なコンサルティングは外国政府機関への保険および退職年金のアドバイスであった。勇気ある旅行者でもあった彼女はインドネシア、太平洋諸島、中国、ブルガリアといった国々で働き、様々な経験が出来ることを大いに楽しんでた。



開業の翌年 1988 年にはオーストラリアの Actuary of the Year に輝いている。さらに 1991 年には豪アクチュアリー会の会長となっている。いずれも女性としては初めてであり、また両方は男女でも始めてである。

彼女はその経歴の中で、政府機関あるいは私的機関の数多くの委員会メンバーも勤めている。たとえば、ニューサウスウェールズ州の State Super、Administrative Appeals Tribunal、Legal & General Australia、ANZ Staff Superannuation などのそれぞれ顧問、あるいは TAFE (NSW) と Cumberland College of Health Sciences (NSW) の理事などである。

アクチュアリー関係での貢献としては、1988 年から豪アクチュアリー会の理事会メンバーとして活躍し、1991 年には会長を務めた。1998 年の国際アクチュアリー会の設立のあと、2000 年にはその会長にもなっている。また、マッコーリー大学およびオーストラリア大学のアクチュアリー財団のそれぞれの理事も勤めている。

このように優れた業績あるいは際だった経歴にも関わらず、彼女は仕事とプライベートをちゃんと両立させていた。彼女は献身的な妻であり母であった。

Clive Prime